

災害から命を守るのは まず、あなた自身です

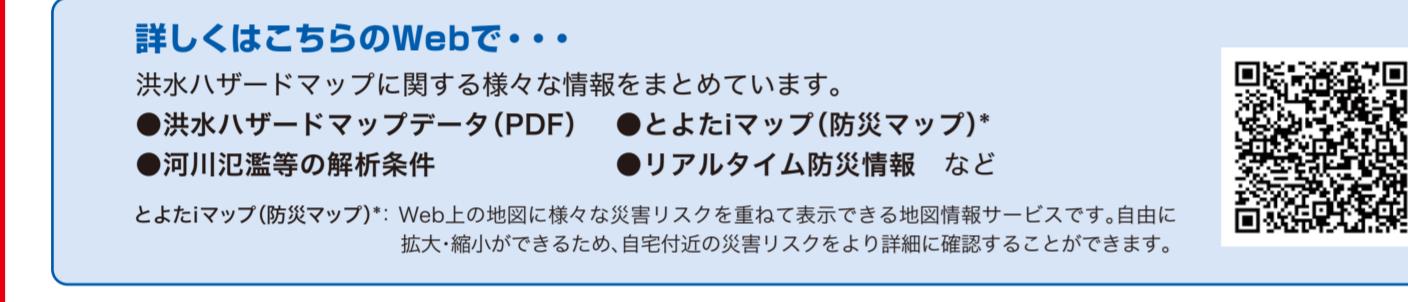


【ハザードマップとは】
豊田市洪水ハザードマップは、大雨による被害から皆さんが避難する際の参考となる情報をまとめたものです。このマップには、矢作川をはじめとした市の主要な河川が大雨により氾濫した場合に浸水が想定される区域や深さ、土砂災害の危険箇所、避難場所などを表示しています。

1 災害リスクを知ろう

まずは、自分の住んでいる地域の災害リスク(被害想定)を把握しましょう。
河川の氾濫によって予想される浸水の範囲と深さのほか、指定緊急避難場所などの情報が記載されています。
想定最大規模降雨(1,000年に1回程度の確率で発生する規模の大雨)での被害想定になります。

1000年に1回程度の確率で発生する規模の大雨: 1,000年に1回程度の確率で発生する規模の大水: 1/1,000の確率で発生する規模の大水
●洪水ハザードマップデータ(PDF)
●とよなマップ(防災マップ)*
●河川氾濫等の解説条件
●リアルタイム防災情報など
とよなマップ(防災マップ): Web上の地図に様々な災害リスクを重ねて表示できる地図情報サービスです。自由に拡大・縮小ができるため、自宅付近の災害リスクをより詳細に確認することができます。



2 避難先と避難経路を確認しよう

緊急時にあわてず無事に避難するには、事前の準備と確認が必要です。

避難行動について知ろう

水平避難(立退き避難)
浸水、家屋倒壊、流失、土砂災害の危険区域から離れ、安全な場所へ避難します。

垂直避難(上階等移動)
安全な場所へ水平避難する時間がない場合や逃げ遅ってしまった場合は、命を守るために、自宅の2階や近所の頃丈の建物のある高い階など危険が及ばない場所に避難します。

屋内安全確保(在宅避難)
浸水、家屋倒壊、流失、土砂災害の危険がない場所または影響が少ない場所で、屋外に避難する方がかえって危険と判断される場合は、自宅などその場に留まり、安全を確保します。

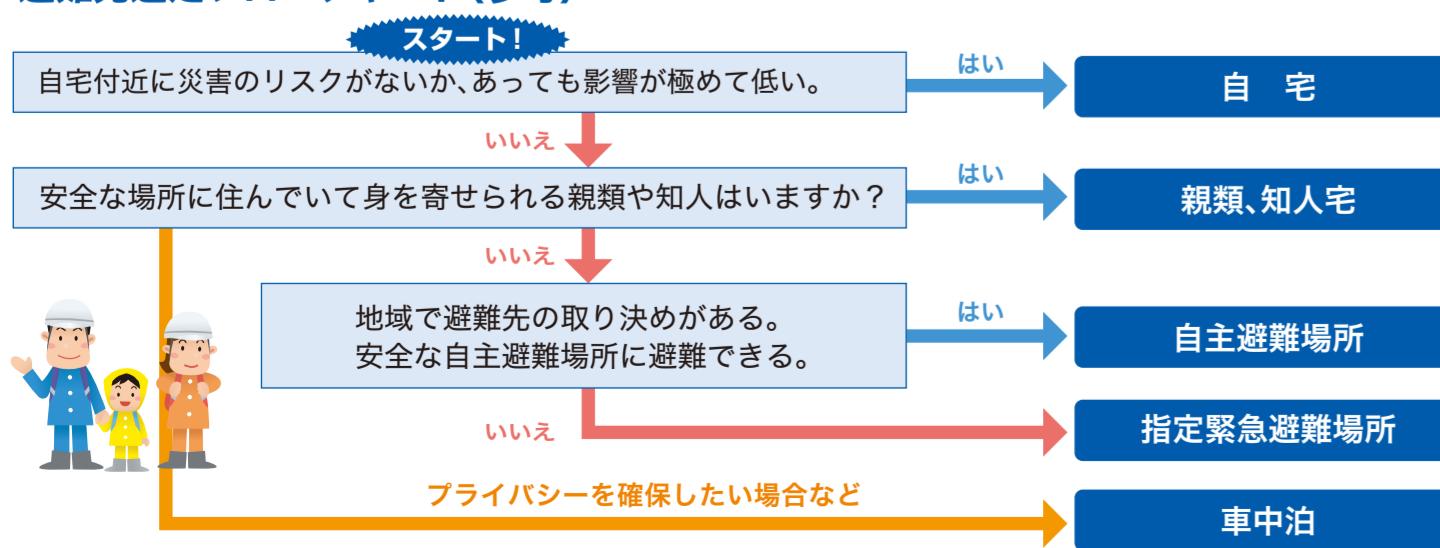
避難先を考えよう
表面のマップにアイコンで車両避難場所、自宅避難場所など、避難先はこの2つであります。避難先はこの2つであります。避難先はこの2つであります。

指定緊急避難場所
災害の危険から身を守るために緊急的な避難先として指定している施設です。風水害時に使用できない緊急避難場所もあります。

自宅
屋外に避難する方がかえって危険の場合があるため、屋内での安全を確保するため、安全な場所へ避難をしましょう。危険を感じた自宅の2階へ垂直避難などして危険を守りましょう。

親類・知人宅
安全な場所に身を寄せられる親類や知人はいる場合、避難先として活用を考えましょう。日頃から避難について相談しておきましょう。

避難先選定フローチャート(参考)



雨が激しく・長くなるほど、 発生する洪水の規模が大きくなります。

1 大雨の初期・浸水の発生 (激しい雨が降り続く)

10年に1回の確率で発生する規模の大雨

【浸水状況】

身近な道路の水路や側溝などから水があふれるものの、浸水はまだ浅い。



2 雨が強くなる・浸水の広がり (非常に激しい雨が降り続く)

30～50年に1回の確率で発生する規模の大雨

【浸水状況】

矢作川の支川(籠川、安永川)、境川の支川(逢妻女川)の水位が上がり、堤防から水があふれるなど、浸水する範囲も広がります。

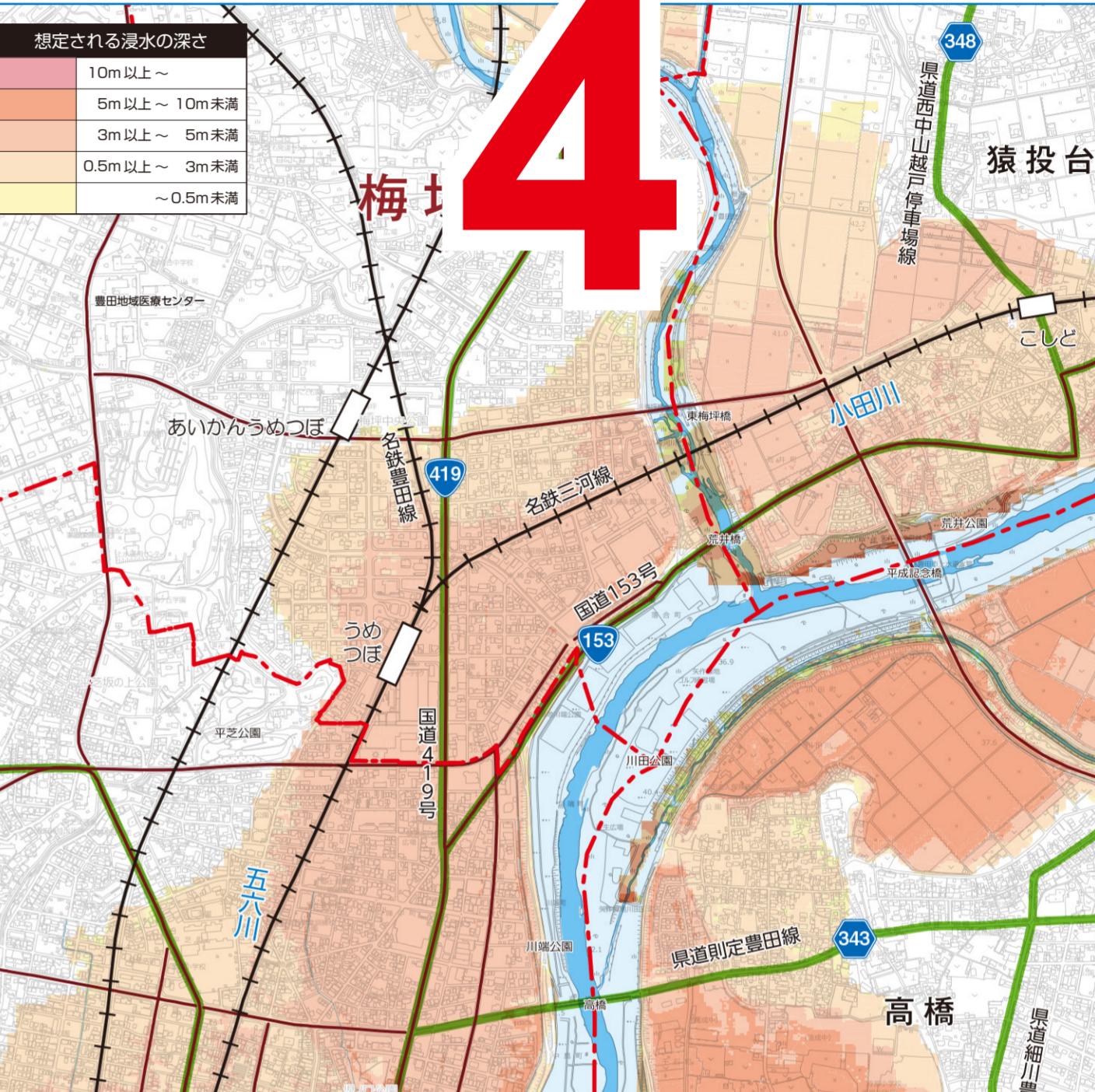


3 さらに雨が強くなる・浸水のさらなる広がり (猛烈な雨が降り続く)

150年に1回の確率で発生する規模の大雨

【浸水状況】

矢作川の水位が上がり、堤防から水があふれるなど、さらに広い範囲で浸水被害が発生する。



大雨が降った時に生じる災害リスク

河川氾濫による浸水

河川の水位が上昇し、堤防から水があふれたり、堤防が崩れたりすると、家屋、道路、農地などまちが水につきます。大雨の規模によっては、ビルの階以上が水につかる箇所も出でます。

家屋倒壊等氾濫想定区域
大規模な洪水が発生した場合、家屋が倒壊もしくは流失する危険がある区域です。水平避難が必要であり、垂直避難を続けるべき区域です。家屋が倒壊する原因は、堤防が決壊した場合に発生する激しい氾濫流や河川の流れによって護岸や堤防と共に侵食される河岸侵食などを想定しています。



内水氾濫による浸水

水路やマンホールから水があふれたり、低い土地では水が溜まったままになります。通常、まことに降った雨は、水路や側溝などを通って河川に排水されますが、大雨になると、河川位が上がり、水路から河川に排水されにくくなります。河川の水位が下がらないと、浸水が長時間続く箇所も出でます。

ため池の決壟

ため池は、利水目的(農業等に使用)以外に、大雨の際に水を一時的に貯める機能を持っています。ため池が決壟した場合は、ため池の下流側で浸水が発生する可能性があります。

土砂災害

大雨によって、山の斜面やがけが崩れる「けがれ」、緩やかな斜面で地下水の影響などでゆっくりと崩れていく「ねずもり」、崩れた土砂が雨水や川の水と混じって流れ、家屋、道路、農地が土砂で埋まる「土石流」などで発生する災害です。

土砂災害警戒区域(通称イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、住民の生命や身体に危険が生ずるおそれがあると認められる区域です。

土砂災害特別警戒区域(通称レッドゾーン)

土砂災害が発生した場合に、建築物に損傷が生じ住民等の生命または身体に著しい危険が生ずるおそれがあると認められる区域です。